流るゝ小川の響も

あはれ故郷のそれに似たる。

\$

同胞遠く思ひつゝも

山のたゝずまひも

ふるさと遠く忍びつゝ

旅行くけふの心樂し。

訪ねるけふの旅路をか

未だ見ぬ里の山を、

JII

8

踏みもなれざる足の疲

AL

犬

童

球

溪

詩

休むるけふの旅寢をか

道行く童子の言の葉

旅

0)

歌

## h 1F

カコ

5 す

n

かっ ら汝 ずは

=

3

8

0

を

日

は

ぶ。

原 詩

a

旅宿の媼の温情嬉し。

どろ故郷のそれと違ふ。 しつ

治所

室の構造まで

【寫 謄 載 轉 許 不】 EPEP

行斡 刷刷 右代表者 清 水 右代表者 服 町 彦 四 香 成 樂 ED 三番郎 會

高富 本原ぼ Œ

雄薰 作作 曲詩

赤

童ン 樂 信ア ブ 會藏ト

編作作 曲歌曲

 $\equiv$ 

旅部

合

の唱

成大フ ラ

第百九十八編







